

令和元年度

自己評価及び外部評価

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1492800147	事業の開始年月日	平成23年1月1日
		指定年月日	平成29年1月1日
法人名	社会福祉法人 輝星会		
事業所名	グループホーム こ・みかん		
所在地	(〒 259-1315) 神奈川県秦野市柳町1-20-10		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和2年1月22日	評価結果 市町村受理日	令和2年6月8日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>運営法人である社会福祉法人輝星会で介護老人福祉施設、ケアハウス、居宅介護支援事業所を運営し、連携する医療法人で介護老人保健施設、デイケア、地域包括支援センターを展開し、自立から要介護5まで継続して皆様に必要な介護を提供することを目指しております。短期入所も受け付けており、ニーズに即した柔軟な対応も取り入れています。渋沢駅より2分という立地条件で、地域に根差したサービスを提供しております。御家族の面会に便利のよい場所で今迄の生活環境に限りなく近い生活を継続し、生きがいや楽しみを持って過ごせるよう職員間の連携を大切に取り組んでおります。</p>
--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	令和2年2月21日	評価機関 評価決定日	令和2年3月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>【事業所の概要】 この事業所は小田急線渋沢駅から徒歩3分の場所にあり、交通アクセスの利便性が良い。平坦な地形で利用者は、職員と一緒に駅前の商店街や近くの公園に買い物や散歩に出かけている。敷地内には同一グループの「みかん・こケアグループ」のデイサービス事業所が入る「こ・みかんビル」があり10月には合同で「みかん・こ祭り」を開催している。毎月「こ・みかんビル」にて、「こ・みかんカフェ」を開催している。デイサービスに通う方がグループホームに入所されたり、グループホームの利用者が同一法人の介護老人福祉施設に転居するなど、連携しながら馴染みの環境で安心できる生活の支援を提供している。</p> <p>【地域で暮らす生活の継続支援】 住み慣れた地域で、馴染みの地域で、地域との関わりを大切にしながら暮らしの継続ができるように地域に根ざした取り組みをしている。曲松第二自治会に加入しており、回覧板が回ってくる。自治会主催の納涼祭りや防災訓練に参加している。市内一斉の美化清掃の時には事業所周りの清掃を行っている。敬老会や年2回ある「ふれあい茶話会」にも参加している。一方、事業所が毎月開催している「こ・みかんカフェ」ではピアノ教師をしているご家族が、ボランティアで「歌声サロン」を担当して下さり、3月には「お点前」を披露する会を計画している。他にも紙芝居、ハンドベル、リース作り、歌唱のボランティアの方が来所して利用者とは交流をしている。10月の「みかん・こ祭り」には地元の3つの中学校から生徒が来所し、それぞれの学校で、吹奏楽や、紙芝居演劇、ブラスバンドを披露してくれて盛り上がっている。</p> <p>【職員を活かした運営】 各職員は、行事委員会（行事の立案・実行）、食事委員会（昼食の献立、食材の調達）、物品管理担当（日常消耗品などの管理、補充）のいずれかを担っている。常勤職員は居室担当をしていて、利用者の状況記録、衣類管理、誕生祝やクリスマスプレゼントの手配など利用者へ寄り添った介護を展開している。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム こみかん
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者○が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者はグループホームに関わる法令、その他の意義を理解しており、これらを自らが所属するグループホームの運営上の方針や目標に具現化し、介護従事者に日常的に話し、実践につなげている。定期的に全体会議を行っている。	法人の理念を基本に開所時から、利用者の状態にふさわしいサービスの提供ができるように法人内の各グループが連携している。理念については職員採用時に説明している。事務所内に掲示して日々目にしたがら介護サービスの提供をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、回覧板などで、地域の様子を把握している。敬老会やふれあい茶話会に参加し、地域の方と交流をしている。	曲松第二自治会に入り、回覧板や掲示板で地域の情報を得ている。自治会の納涼祭や防災訓練、地域美化清掃に参加している。毎月「こ・みかんカフェ」を開いており、地域の方々の参加が増えている。毎年秋に開催の「みかん・こ祭り」には地元の3つの中学校の学生が、吹奏楽や紙芝居演劇、ブラスバンドの披露をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人との連携にてみかん祭りやこみかんカフェなどで、認知症の理解を広めている。さらに地域交流の一環として、緊急避難場所としての提供を検討。		

4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>ご出席いただいた方がたの意見を参考にさせていただき、サービスに反映させている。自治会長にも参加して頂き、地域との協力についても話している。</p>	<p>運営推進会議は2か月ごとに同一法人のグループホームと合同で開催している。メンバーは高齢介護課職員、地域包括支援センター職員、家族、自治会長、法人の運営部長、管理者（2人）で、活動報告、情報交換、意見交換をしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>事業所連絡会や市内保健福祉センターのイベントの打ち合わせの時に意見やご指導をいただいている。また、毎月メールで、入居状況を連絡している。</p>	<p>保健福祉センターフェスティバルでは、高齢介護課と市内のグループホームとが共同でブースを出して、利用者の作品を展示し認知症やグループホームについて啓発した。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルなどで、意識統一は図れているが、246沿いということもあり、防犯、安全上のため、玄関は施錠している。やむを得ない時はご家族の許可を得て、時間を限って行うこともある。	「身体拘束適正化委員会」と「虐待防止委員会」を3か月ごとに開催して、マニュアルの見直しや研修を実施している。スピーチロックについては日々の介護の中で気づいた時に注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	研修などで学んでおり、日々の関わりのなかで、声掛けや対応には注意を払っている。また、職員同士もお互いの言動には気を配っている。アンケートをとり、振り返りもしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度や地域権利福祉権利擁護事業についても研修へ参加し、知識を高めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居、退居の時は十分な説明を行い、重要事項説明など書類での明確な説明も行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会などの機会にご意見やご要望をお聞きしている。また、夏祭りやみかんご祭りにお誘いし、関わりを密にし、聞ける機会を増やしている。	家族会はないが夏祭りや日頃の来所時には話ができるようにしている。家族からの提案で「こ・みかんカフェ」で歌声サロンを開くようになった。ピアノ教師をしている家族がボランティアで担当してくれている。	家族から個別に話を聞く機会がありますが、家族全体との意見交換の場があるとより有効です。夏祭りの開催と合わせるなどの工夫をして家族会の時間をつくり外部評価の報告や事業所の活動への協力を依頼する場とすることを期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で意見をきくようにしている。また、状況に応じ、随時、報告・相談・提案されている。必要に応じ、ユニット会議を開き、個人の意見も検討している。	年度末や大きなイベントの前には全体会議を開き意見交換をしている。今回の自己評価は職員で分担して記入し最終的に管理者がまとめた。日頃の情報共有は「申し送り表」や「連絡ノート」を活用している。職員から、物の配置の仕方を工夫する、利用者の活動の様子を写真にして掲示するなどの提案があって実施した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価会議にて職員の適性や希望を把握し、配置を決めている。研修の参加などについても希望を取り入れている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での教育システムを活用し、マニュアルを取り入れた指導や、目標にむけた取組みを行う。研修についても希望をとりいれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	ケアマネ協会の会議や研修、フェスティバルの打ち合わせに参加している。また、グループホーム間での相互研修も検討している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に職員が御本人、御家族と面接を行い、希望をお聞きし、状態把握に努める。入居初期にも特に関わりを密に行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の段階でグループホームの特性を理解していただけるよう、説明をさせていただく。困りごとや、入居後の不安をおききし、その方にあったサービスを提供できるよう、相談を重ねる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の段階で、グループホーム入居だけでなく、その方にあったサービスの説明、入退居を考慮した説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員も同じ生活を共にするという意識をもち、対応する。ケアプラン作成時、サービス担当者会議を行い、本人の意向も取り入れている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族あってのご本人という意識をもち、ご家族との連携を密にしている。ご様子で、状態の報告もしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会があり、湯茶でもてなしている。馴染みの駅前の商店へ買い物にでかけている。	友人が訪ねてくる方、いとこが会いに来る方がいるので居室で、ゆっくり歓談できるように支援している。娘の同級生の親の集まりの会（読書会）に娘と出かけている方もいる。年賀状が届く方もいる。毎週、米を買いに行くので店員と顔なじみになっている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の趣味、特性を踏まえ、コミュニケーションをしやすいようにレク用品や本を用意している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の相談、方向性をご家族と共に検討している。別施設や病院に移られても面会などにいっている。また、道でお会いした時も様子をうかがっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	レクの記録も把握し、その方のできること、興味のあることをチーム全体で把握する。レクを継続することにより、できなかった事が、できるようになってきている。	日々の会話の中で、思いや意向を把握して記録している。会話が困難な方は仕草や表情から読み取り、本人本位に検討して、介護サービスに反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントや入居後もご家族様やご本人との会話で情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介護の中で気づいたことを検討し、見直している。		
	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の関わりや変化に気づき、本人やご家族の要望や。意見を反映させたものを作るように心がけている。医師の指示も入れている。	介護計画は3か月ごとに見直している。居室担当職員が担当の方の様子や課題情報、本人や家族の要望などを記録して、それを基に職員で話し合い介護計画を作成している。医師や看護師からの意見も反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録については会話の内容、反応、表情などを細かく記録するようにしている。ケアプランの実施の有無や評価も書くようにしている。記録により情報の共有もしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望や状況について、ご家族の希望もおききし、話しあいまし、とりいれている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市内のSOS登録や民生委員の方たちとは運営推進協議会を通してご協力をお願いしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望をおききして、かかりつけ医をきめている。特にない場合は法人の往診医に健康管理を行ってもらっている。	協力医療機関の医師が月2回往診をしている。歯科医は家族対応で受診している。口腔ケアに関しては、職員が歯科衛生士から口腔ケアの指導を受けて対応している。かかりつけ薬局が医師の処方箋で調剤し、配達している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携している法人保健施設の看護師へ医療処置の相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	御家族や医療機関と連絡をとり、状態把握を実施し、方向性を決めている。面会時に担当看護師から情報を得ている。		

	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時ご家族にお話しをしている。重度化や終末期については本人の状態にあわせ、早い段階から報告し、相談し、方向性について伺い、プランに反映してチームとして支援している。	入居契約時に、医療機関等との連携について説明している。医師から終末期だと診断が出た場合、医師から家族に状況の説明があり、その後の対応を決めている。同じグループの特別養護老人ホームや老人保健施設と連携して支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人の行う研修への参加や緊急時の対応に関しては定期的に見直しを行う。地域のAEDの研修にも参加している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練で職員の意識を高めている。又、地域の防災訓練に参加し、避難場所の確認をし、協力体制を築いている。	本年度は6月に夜間火災を想定、9月に日中火災を想定して訓練を行った。反省会で周りに呼びかけるためのメガホンがあると良いとの意見が出た。3月には地震を想定した訓練を予定している。備蓄品は利用者+職員の3日分を確保している。	災害時に近隣の方々の支援が得られるとより安心です。今後の訓練には近隣の方々にも立ち会ってもらえるように、運営推進会議で協力依頼をしたり、近隣に避難訓練の案内をするなどの取り組みをして、地域住民参加の訓練ができる事を期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者には尊敬の念をもち、言葉かけをおこなっており、職員間でも注意を促している。個別指導も行っている。	職員は採用時、個人情報・プライバシーや接遇について研修を受けている。個人情報を含む書類は鍵のかかるキャビネットに保管されている。日々のケアでは言葉遣いに気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員主体にならないように言葉かけや対応に気を付け自己決定を促している。危険の内容、できる限り、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	利用者の動きに合わせた業務表の作成、日課を作成し、支援している。個々の対応は難しいが、できる限り、そうよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ホームにも月1回訪問の理髪があり、本人の希望の髪型にしている。又、季節に合った衣類を身につけて頂くために、衣類の入れ替えを行っている。入浴時の着替えの選択もご本人の意志を尊重している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューにも希望をとり入れ、調理、もりつけもしていただき、作る喜びを感じていただいている。食形態もご本人にあったものになっている。	朝食夕食は配食業者から届く料理を配膳している。ご飯と汁物は事業所で用意している。昼食は利用者の希望も取り入れて食事委員会で献立を立て食材を購入して調理している。医師の指示で個別に塩分の調整をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食事時、摂取量のチェックをしている。制限のある方や少ない方は別に水分チェックを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人の状態に応じた方法で介助し、衛生を保っている。拒否があり、応じて頂けない時には職員を変えて対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	本人に合わせた誘導の仕方です。トイレでできるよう援助している。	排泄チェック表を記入し利用者の排泄パターンを把握している。時間や利用者の様子を見てトイレ誘導し、トイレでの自立排泄を支援している。退院後オムツ使用の方が日々の声掛けでリハビリパンツに変更する事ができた事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、食べ物、運動でコントロールできなくなっている方は、ドクターの指示にて下剤の使用にて排泄のコントロールを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	個別に時間、順番、更衣する衣服についても、希望に添えるようにしている。拒否がある場合は順番や、日、職員を変えて対応している。	週2回、午後の入浴を実施している。失禁時にはシャワー浴をしている。お湯は一人ひとり入れ替えている。希望があれば同性介助にも対応している。菖蒲湯やゆず湯も取り入れて季節感を味わえるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人が自由に休めるように利用者の思いをくみ取り、援助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報をもとに把握している。また、マニュアルにて手順を周知している。服薬漏れがないかダブルチェックをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や力を活かした役割については、お手伝いをしていただいている。ご本人やご家族にお聞きし、対応している。嗜好品はご家族の協力により、個別対応している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ケアプランに散歩を入れたり、ご家族にお願いして外出や、季節ごとのドライブを行っている。	日々の散歩は、職員と1対1で出かけ、周辺を散策し公園で一休みをして事業所に戻る、約15分のコースで行っている。年間行事計画を立てて花見ドライブ等に出かけている。正月には近くの神社に初詣に行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に買い物に行き、好きなものを買えるように援助している。ご家族との外出時にもして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族、ご親戚の方との手紙のやり取りの支援や希望時に電話を掛けるなどの援助もしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や食堂に季節の花を飾ったり、室温調整にも配慮し、居心地の良い空間にできるよう支援している。	居間兼食堂はエアコンと加湿器で空調管理がされている。プランターには花苗が植えられ和ませていた。壁には行事の写真や菜の花の切り絵が飾られ春の先取りを感じさせていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席も相性などを考慮して決めている。共用空間にはソファもあり、ゆったりと過ごせるようになっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具、想いでのご家族様の写真などをおくことで、居心地の良い空間を作っている。	居室には照明、エアコン、ベッド、クローゼット、ナースコールなどが備え付けられている。利用者は使い慣れた好みの家具を配置し、写真やぬいぐるみを飾って居心地よく過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりやバリアフリーで自立した生活ができるようになっている。また、居室のまえに表札、トイレにはめじるしをつけ、わかりやすく工夫している。		

事業所名	グループホーム こみかん
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者○が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者はグループホームに関わる法令、その他の意義を理解しており、これらを自らが所属するグループホームの運営上の方針や目標に具現化し、介護従事者に日常的に話し、実践につなげている。定期的な全体会議の他、大きなイベント前にも行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板などで、地域の様子は把握できている。行事への参加は夏祭りや防災訓練に参加している。また、月に1度、こみかんカフェを開催し、地域の方々との交流がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人との連携にてみかんこ祭りなどで、認知症の理解を広めている。さらに地域交流の一環として、緊急避難場所としての提供を検討。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご出席いただいた方がたの意見を参考にさせていただき、サービスに反映させていきたい。議事録の掲示をし、内容を周知する。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所連絡会や市内保健福祉センターのイベントの打ち合わせの時に意見やご指導をいただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルなどで、意識統一ははかれているが、246沿いということもあり、防犯、安全上のため、玄関は施錠している。やむを得ない時はご家族の許可を得て、時間を限って行うこともある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修などで学んでおり、日々の関わりのなかで、声掛けや対応には注意を払っている。また、職員同士もお互いの言動には気を配っている。アンケートをとり、振り返りもしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度や地域権利福祉権利擁護事業についても研修へ参加し、知識を高めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居、退居の時は十分な説明を行い、重要事項説明など書類での明確な説明も行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や行事参加の際に密に意見交換が出来ている。行事の際にはアンケートを実施し、反映させている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時、意見を言える環境である。個人的に聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価会議にて職員の適性或希望を把握し、配置を決めている。研修の参加などについても希望を取り入れている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での教育システムを活用し、マニュアルを取り入れた指導や、目標にむけた取組みを行う。研修についても希望をとり入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	ケアマネ協会の会議や研修、フェスティバルの打ち合わせに参加している。また、グループホーム間での相互研修も検討している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に職員が御本人、御家族と面接を行い、希望をお聞きし、状態把握に努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の段階でグループホームの特性を理解していただけるよう、説明をさせていただく。困りごとをおききし、入居後の不安をおききし、その方にあったサービスを提供できるよう、相談を重ねる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の段階で、グループホーム入居だけでなく、その方にあったサービスの説明、入退居を考慮した明説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者も職員も同じ生活を共にするという意識をもち、対応する。研修に参加し、自立支援の意識を高めたい。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族あってのご本人という意識をもち、ご家族との連携を密にしている。ご様子で、状態の報告もしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族に行事開催予定を周知し、面会以外での交流がある。外部受診の際に外食などもしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食席を考慮し、関わりを持てるようにしており、トラブルにならないよう配慮している。レクを職員も交え、みんなで行なうように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の相談、方向性をご家族と共に検討している。別施設や病院に移られても面会などに行っている。今後は行事への参加を呼び掛けることも検討している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話の中からききだし、添えるように努めている。御家族から聞き取りもしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントや入居後もご家族様やご本人との会話で情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録に残し、ケアプランにいれ、日課にしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の関わりや変化に気付き、本人やご家族の要望や。意見を反映させたものを作るように心がけている。医師の指示も入れている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録については会話の内容、反応、表情などを細かく記録するようにしている。ケアプランの実施の有無や評価も書くようにしている。記録により情報の共有もしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望や状況について、ご家族の希望もおききし、話しあいもし、とりいれている。ご家族の状況によりニーズの変化もあり、とりいれている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市内のSOS登録や民生委員の方たちとは運営推進協議会を通してご協力をお願いしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望をおききして、かかりつけ医をきめている。特にない場合は法人の往診医に健康管理を行ってもらっている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携している法人保健施設の看護師へ医療処置の相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	御家族や医療機関と連絡をとり、状態把握を実施し、方向性を決めていく。面会時に担当看護師から情報を得ている。		

	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と重度化や終末期については本人の状態にあわせ、早い段階から報告し、相談し、方向性について伺い、プランに反映してチームとして支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が実践力が身につけているわけではないので、法人の行う研修へ参加する。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練で職員の意識を高めている。又、地域の防災訓練に参加し、避難場所の確認をした。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者には尊敬の念をもち、言葉かけをおこなっており、職員間でも注意を促している。フロア会議で再確認している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人のやりたいことや食べたいものをメニューを決める時におききしたり、入浴時の着替えを選ぶことも決定してもらい、その思いを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	利用者の個々に合わせた日課を作成し、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ホームにも月1回訪問の理髪があり、本人の希望の髪型にしている。又、季節に合った衣類を身につけて頂くために、衣類の入れ替えを行っている。入浴時の着替えの選択もご本人の意志を尊重している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューにも希望をとり入れ、調理、もりつけもしていただき、作る喜びを感じていただいている。食形態もご本人にあったものにしてている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事低下のある方には医師と相談し、補助飲料などで、栄養を摂取している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士の指導のもとに個人の状態に応じた方法で介助し、義歯はお預かりし、洗浄している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時声掛けを行い、失敗しないよう援助している。出来る限り自分できるよう援助している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、食べ物、運動でコントロールできなくなっている方は、ドクターの指示にて下剤の使用にて排泄のコントロールを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	全員が平等に入浴出来るよう、曜日の割り振りにはしているが、拒否があった場合には、見送るなどして無理強いはしていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の状況に応じていつでも休息して頂いている。室温調整もこまめに行なっている。冬は乾燥防止にもつとめている。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報をもとに把握している。また、マニュアルにて手順を周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や力を活かした役割については、お手伝いをしていただいている。楽しみや娯楽がテレビという方もおり、対応している。レクもその日の天候にあわせ、工夫している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候が良い時期には公園や駅まで散歩に行ったり、季節の花が咲く頃にはドライブも行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に買い物に行き、好きなものを買えるように援助している。ご家族との外出時にもして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族、ご親戚の方との手紙のやり取りの支援や希望時に電話を掛けるなどの援助もしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内の壁には毎月、利用者様と共同制作した季節の壁画などを飾り、自然と季節を感じやすい空間にしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席も相性などを考慮して決めている。共用空間にはソファもあり、ゆったりと過ごせるようになっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具、想いでのご家族様の写真などをおくことで、居心地の良い空間を作っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりやバリアフリーで自立した生活ができるようになっている。また、居室のまえに表札、トイレにはめじるしをつけ、わかりやすく工夫している。		



目標達成計画

事業所名 社会福祉法人輝星会
グループホームこみかん

作成日 令和2年6月 7日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	家族から個別に話をきく機会はあるが、家族全体との意見の場がない。	家族会を立ち上げる。行事への協力をして頂く。	家族参加を呼びかけている夏祭りの際に時間を設け、開催し施設に対する要望などをお聞きする。また、行事への協力をお願いする。	1年
2	35	災害時に近隣の方々の支援が受けられると安心である。	ホームでの訓練に近隣の方も参加して頂く。	自治会や運営推進協議会の際に参加を呼びかけ、避難訓練に近隣の方も参加していただく。	1年
3					
4					
5					